

「ただいまー。」

今日は金曜日。母の声がきこえたら、私は玄関へと飛んでいきます。パンのいい香り。火曜日に頼んだパンが母の職場に届き、持って帰る日だからです。

私がこのパンと出会ったのは去年の秋でした。母の職場仲間の知り合いの方が働いているのだそうです。

「シンプルでおいしいな。」

それが、私がパンに抱いた印象でした。素朴でさつまいもなどを使ったかざらない味で、土曜日の朝食にのぼるのをいつも楽しみにしています。

夏休み、そのパンのお店が店先販売をしているとききました。私はてっきり宅配専門のお店だと思っていたので、母に誘われた時、驚きました。一カ月に二回、店先でもパンを販売しているそうです。普段、パンの奥にある、つくっている人のことなんて考えたことがありませんでした。どんな人があのパンをつくっているのだろう、と私は興味がわき、行ってみることにしました。

そのお店は、つむぎ福祉会の「そらまめ作業所のパン工房エピ」という所でした。大阪府平野区にあり、私の通う学校から近いのですが、今までパン工房の存在を知りませんでした。新しいお店を見つけて、少し嬉しいです。

工房に行った日、実は悲しい気持ちでした。勉強がうまく行っておらず、嘆いたり自分の性格に落ちこんだりしていました。

工房を見つけて中に入ろうとしましたが、その扉は手動で開け方がわかりませんでした。私がオドオドしていると、店員さんのおじいさんが私の様子に気づいてにっこりし、扉を開けてくださいました。中には長机が一、二台おいてあり、色々なパンが並んでいます。その中にはいつも頼んでいるパンもあり、見知ったパンを見つけ、少し気持ちもほぐれワクワクしました。

「どれにしますか。」

お兄さんが声をかけてくださいました。私は、パン屋さんで店員さんに声をかけられたことがなかったので、一瞬驚いてから、いつも食べている好きなパンを選びました。

今度は、買ったパンをエコバックにつめようとすると、さっきのおじいさんが

「あっ入れますよ。」

と私の所に来てエコバックの口を開けてくれたのです。私は親切な店員さんだなと思いながら、お店を後にしました。悲しい時に行ったこともあってか、そのやさしさはとても心に響きました。

世間では、障がいのある人を何もできない、と決めつけることがあります。この工房では、毎朝、注文のあるパンを全て手作りして、宅配しています。この方たちは自分にしか

できないことを実行しています。暗い気持ちの時、その様な存在はとても大きく思えました。

この出会いで「シンプルでおいしいパン」は「あたたかくて特別なパン」になりました。

私は今、学校で **SDGs** について学んでいます。この方々は「3. すべての人に健康と福祉を」と「8. 働きがいも経済成長も」に取り組まれているなと思います。パンを作り、働いている工房の方は、お給料でアイドルのコンサートに行くことを励みにしているそうです。自分のしたいことを自分の手でつかもうと働く姿が輝いて思えました。

私も将来について考え、時々とても不安になったり悩んだりします。これから、そんな時、工房の方たちを思い出します。自分だからこそできることを見つけて生きる姿を見習いたいです。

そらまめ作業所のみなさんへ。いつもあたたかく、美味しいパンをありがとうございます。秋の新作も楽しみにしています。